

～子どもとのふれあい～

私は、保育士をめざし植草学園大学に入学しました。入学して約半年経ちますが、ボランティアや参観実習を通じてたくさんの子どもたちとふれあう機会がありました。幼稚園でのボランティアでは、発表会や夏祭りのお手伝いをして、子どもだけではなく現場の先生とも多くのコミュニケーションをとることができました。参観実習では、障害児施設へ行き、障害のある子どもに対する先生の接し方を実際に見ることができてとても勉強になりました。行事だけではなく、日常の子どもたちの様子を見ることができ、保育士になる楽しみが増えました。

これからもたくさんのボランティアに参加して、子どもたちとふれあいながら経験を積みたいと思います。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科 1年 川島 涼花  
千葉県立茂原高等学校出身



～北海道への帰省～

今回、初めての夏休みで、千葉県から北海道へバイクで帰省しました。茨城県大洗から北海道苫小牧まではフェリーで18時間の船旅、札幌の実家に帰るまで1泊2日かかりました。4ヵ月ぶりの北海道は、千葉とは気温が違い涼しく感じました。札幌で食べる海鮮丼やジンギスカンは美味しいので、お越しの際は、是非ご賞味ください。



私は、保育士をめざしています。大学進学にあたり、自分の学びたいことを学ぶためには、北海道から離れることも考えました。いろいろな大学を調べるうちに、植草学園大学は、保育に関する知識だけでなく障害についても学べることを知り、障害のある子どもに対しても接することができる保育士になれると思い、進学を決めました。

植草学園大学に入学して感じていることは、学生が明るく、先生との距離も近く、居心地のよい大学だということです。これから、ボランティアやインターンシップなど積極的に参加していき、多くの経験をしたしたいと思います。また、一人暮らしを始めて、自分の事を全てやらなくてはいけない環境で、今までの親の支えに気づきました。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科 1年 中村 祐三郎  
北海道洞爺高等学校出身



～卒業生からのメッセージ～

私は、東京都内で学童保育の指導員として勤務しています。放課後に子どもたちが、安全で楽しく過ごせる場を作ることに、仕事のやり甲斐を感じています。

仕事では、子どもたちの心に寄り添い、目の前にいる子どもの気持ちに気づき、笑顔にするためにどんなことができるかを考えています。子どもたちがつぶやく言葉にアンテナを張り聴くようにしています。無邪気に遊んだり、新しい遊びを考えたりするときの子どもたちの表情はキラキラ輝いています。

大学で過ごした4年間の中で、一人ひとりの子どもの気持ちや、その背景に気づくことの大切さを学びました。なかなか「遊ぼう」の一言が口に出せず、一人で遊ぶ方が好きだと言っていた子どもが、本当はみんなで遊びたいのではないかと、本当に一人で遊ぶことが好きなのか…考え出すときりはありませんが、その子が家に帰ったとき、「みんなと遊んだ」と言えることは、家族にとって嬉しいこと(安心すること)だと思い、輪の中へ入れる環境を整えました。その後、様子を見てみると、楽しそうに遊んでいる姿がありとても嬉しく感じました。

来年には、放課後児童支援員資格を取得する研修を受講させていただくことになりました。職場の方々への感謝の気持ちを忘れず、児童指導員としてたくさんのことを学びたいと思います。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科 4期生 斉藤 史希  
福島県私立東日本国際大学附属昌平高等学校出身



～11月12日(土)・13日(日)は緑栄祭～

今年の緑栄祭のテーマは「祭」スローガンは「鳴り響かせろ、心の祭囃子を」です。

みなさんにお祭りの雰囲気味わっていただくために、実行委員会のメンバーは半被を着用し、学内を提灯で装飾する予定です。子ども神輿や花火などの、お祭りを盛り上げる企画も用意しています。その他にも、恒例の哺乳瓶早飲み大会・のど自慢大会・お笑い芸人LIVE・ミスコン、サークルや有志の発表をメインステージ等で開催します。新企画としては、モザイクアートを行います。どんな作品が完成するのか楽しみにしてください。

植草学園らしいお祭りを楽しんでいただけるように企画しています。是非、みなさんご参加をお待ちしております。

緑栄祭実行委員長 (写真中央)  
大学 発達教育学部 発達支援教育学科 2年 栗澤 陽太

千葉県立柏井高等学校出身

